

# 紀泰山銘

開元十四年(726)  
(唐時代)

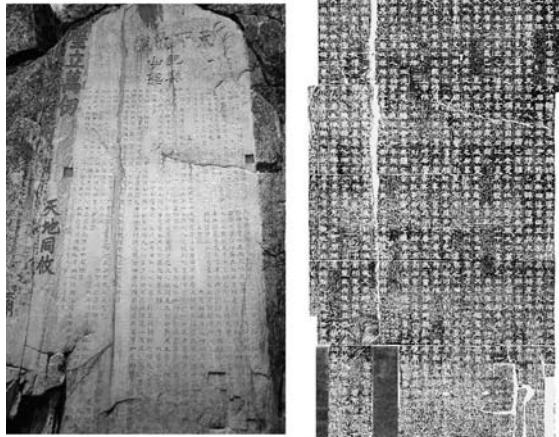
## 雄大な摩崖刻石⑨

木雞室

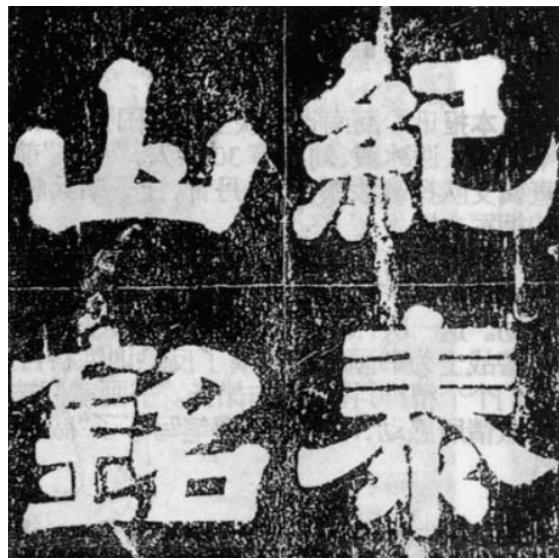
伊藤 滋

図版② 原石写真と整拓本

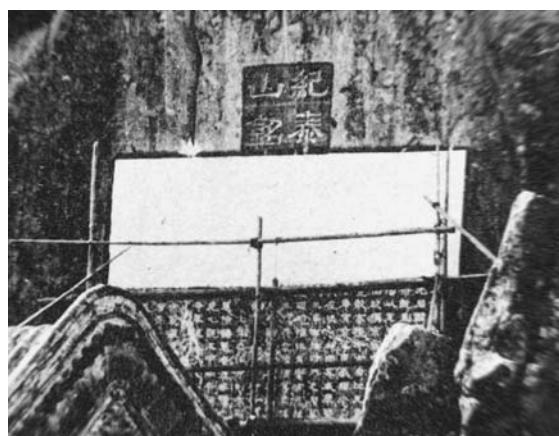
紀泰山銘



図版③ 碑額四字



図版④ 取拓風景（戦前）



山東省の名岳・泰山の大觀峰には、唐の玄宗皇帝の書とされる「紀泰山銘」がある。「東岳封禪碑」「泰山唐摩崖」とも呼ばれている。図版②に見るようないい摩崖刻石であり、高さ十三メートル余、幅五メートル余、一行五十一字、全体で約千字、文字の大きさは幅約二五センチ、碑額は、一字が大きく約五〇センチ、本文とほぼ同じ隸書体で「紀泰山銘」とある（図版③）。銘文は、

玄宗皇帝・李隆基が自ら文を作り、書したとされ、泰山に上り天地に祈りを捧げ、万民の福を祈願し、歴代の先皇の業績を讃え、自ら「慈・儉・謙」の三徳を守ることを述べている。玄宗皇帝は、隸書を善くしたのであろう。他の碑林博物館の中央にある有名な『石台孝經碑』などがある。漢の八分隸書とは異なり、やや流麗過ぎる趣であるが、六朝末から隋時代にかけて復古し

てきた隸書の流れを受けた書風である。これだけ大きな摩崖刻石を拓することは容易ではない。戦前の『支那文化史跡』には、この摩崖刻石を拓している写真がある（図版④）。これまで眼にした整拓本は、ほぼ五分割して拓されていた。取拓写真を見られるように、一枚は一行あたり十字（第五紙のみが十一字）、始行から末行まで拓されていて。千葉の成田山書道美術館には、

この巨大な「紀泰山銘」の摩崖整拓本が巨大な一枚のパネル張りにして常時展示されている。

次号は、顔真卿の「大唐中興頌」です。この欄に関するご批評、ご意見、ご希望、ご質問などをお聞かせください。私宛に直接メールで、また編集部宛にお送りいただければ幸いです。

伊藤 滋 メールアドレス

mokkei@galaxy.ocn.ne.jp

圖版① 「祈福」(釋文)「縮小」



# 書道芸術院 平成の群像 (2012)

学園のお庭にて



左後  
(滝 春芳)

中央  
香川春蘭先生

右側  
香川倫子先生



滝  
春  
芳

昭和26年「第一回小品競書大会」が開催されたのは、私が中学三年生の時でした。

中一で書道を初めて、当時森村学園書道科の先生でおられた、香川春蘭先生の稽古場まで、友達と一緒にかけて伺つておりました。私が中三の時初めて、半紙による展覧会が開催される事となり、個人賞と団体賞が出ると言う事で、春蘭先生、倫子先生の御指導の下、全国優勝を目指し、暑い中皆夢中で、作品制作に取り組みました。

当時優秀校の高崎女子高等学校、木更津第二高等学校を抜いて、優勝できた事、その喜びこそ、私をこの道で今日まで、精進させる原動力になつたような気がします。

今回、学生書道展が「63回展」で単独開催に、幕を閉じる事は、当時の同世代の飯高和子先生、東素子先生方も一抹の淋しさを感じておられる事と思います。他に楽しみの少なかつた時代、展覧会に出品出来る事は最大の喜びで、夢中で墨をすり、何枚も何枚も書いた思い出は、他の先生方も同じだと思います。

また、当時冬に開催されていた、条幅の学生書道展は、書を志さず学生に取っては、大きな目標になつっていました。しかしながらその条幅の部門も、28回展で姿を消してしまいました。

いろいろな事情があるとは思いますが63回続いている半紙展の火はいつまでも灯し続けたいと思います。

書は日本文化そのものであり、「書は芸術である」と言う書道芸術院の精神は子供達にしっかり伝えていきたいと思います。

64回展からは、開催方法が大幅に変更されますが、本展と一緒にあっても、添え物ではなく、今までと同じ様に子供達の目標となるような展覧会として開催される事を望まずにはいられません。これからも微力ながら書道の発展につくづくなければ幸いと思います。

## 全国学生書道展に思う

# 書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

## 財書道芸術院評議員会・理事会開催

3月18日（日）、東京浅草橋のベルモンテホテルにて定例の院評議員会が午前中、午後総局支局長会議に続き理事会が開催された。

平成24年度事業案、予算案、公益財団法人移行に伴う寄付行為の変更決議、任期満了に伴う理事改選及び評議員の補充、書道芸術院展昇格人事などが検討され、いずれも原案通り可決承認された。詳しくは別掲院報をご覧いただきたい。

\*退任される理事（敬称略）

齋藤雨城・西林乘宣・宮澤梅径

（財団常任顧問、院展参与会員にご推薦）

\*新理事

後藤大峰・種谷萬城・名越蒼竹

\*新監事 浜田堂光

\*新評議員（残任期間）

清水翠径・竹本龍汀・西岡雨瑠  
(他の方々は再任)

## 毎日「日本現代の書41人展」開幕

ここ数年来準備を積み重ねてきたフランス・パリ市、国立ギメ東洋美術館にて開催の「日本現代の書41人展」が3

月14日より2か月間の長期にわたり開催される。

3月8日よりパリ入りして陳列作業、

開幕準備などに当たった。ギメ美術館側の会場構成案をベースにしながらなり大幅な変更も提案して、翌9日までかけて陳列作業を終えた。何しろ現代書の展示など初めてであるためいろいろやり取りしながらであったが、結果は上々であった。

10日は一日オフ、11日開幕式準備、12日午後2時より記者会見を、本展監修担当の東京国立博物館島谷弘幸副館長と大雲が会場にてを行い、別室4階ホールにてパリ展実行委員の創玄書道会永守蒼穹氏、独立書人団の山中翠谷氏をまじえ席上揮毫を行った。書の制作スタイルを、漢字作品、大字書、近代詩文書とご覧いただき質疑をまじえ反響は大きかった。

13日11時から美術館1階クメール彫刻展示ホールにて開幕セレモニー、宮崎紫光氏と石飛博光氏の席上揮毫を皮切りに日仏双方代表、ギメ美術館ベルノン館長、フランス文化庁、日本大使館、朝比奈毎日新聞社長などが開会のごあいさつ。パリ警視庁音楽隊の演奏の中、華やかに開幕した。

午後同じ1階ホールにて出品者代表の席上揮毫が3回に分けて行われ、我が書道芸術院は下谷洋子常務理事に応援の千葉蒼玄事務局長、前田龍雲さん(他の方々は再任)が音楽隊の演奏とコラボレーションを行い、喝采を浴びた。

同日夕刻より訪仏団宿泊のホテルブルマンのレストランを借り切って祝賀懇親会がフランス側の招待者を含め約100名によりにぎやかに行われた。

14日から17日まで連日会場内にてワーキングショップ、席上揮毫の披露が行われ、毎回30名近くの参加者でにぎわった。

4月にも辻元大雲・下谷洋子さんを中心として行われる予定である。さらに5月閉幕のころにも予定されている。

来年10月に毎日書道展65回記念事業の一環として同会場にて100人展の企画も決定しており、日本の現代書がフランススピアリでどのように根付くか楽しみである。

## 村野大仙個展盛大に

本院名誉顧問の村野大仙先生が地元武藏野市吉祥寺美術館にて久し振りの個展を開催された。御年83歳とは思えぬ気力に満ち、創意あふれる作品群は観る者を惹きつけてやまない。益々のご健勝とご活躍をお祈りしたい。

\*会場 3月16日～20日

\*会場 武藏野市立吉祥寺美術館



村野先生と小竹・千葉両氏と共に

## 第65回書道芸術院東日本展盛大に

第65回書道芸術院展の終幕として宮城県仙台市メディアテークにて約200点を陳列。更に記念事業の役員作品巡回展のスタートとなつた。陳列は約2日間をかけ万全を期し、3月24日のオープニング、作品開設会、25日には勝山館にて400名あまりの参加者による祝賀懇親会が盛大に行われた。受賞者の顕彰式もあり賑やかであった。詳細は次号報告をご覧いただきたい。

## 刻字(一)

津田海仙

### 言葉と対峙が要



「自立」

津田海仙書

21世紀の書 私の主張の原稿依頼を受けた。ものの文章表現が苦手な私が無事終稿することができるか大変不安です。前衛書を始めてから現在に至るまでを振り返えり稚拙な文章になると 思いますが、ご勘弁願います。作品を制作する上で、まず取りかかることは作品の題名選びです。習いがけは、師からの参考資料中から、作品題名を検討して選び、ただ形のみを追求し、がむしゃらに書いた。展覧会を見てまわると、作品の題名と表現が一致しない作品に出合うことがよくある。題名で

作者の想いや制作の意図がわかるといふことだ。ある勉強会で、師は、「身のまわりに色々な題材がある。それをどういう想いで受けるかで題は変わる」と言られた。それ以来、身のまわりの社会や自然界に関心を向けてきた。今は一つのテーマを設けて制作している。「生命(いのち)」を例にして、生 命は、生まれてから死に至るまで様々なことが起きる。それを、その場そ の場で色々なものと関わり対処していく。その折々に発生する想いや感情等を振り返えり稚拙な文章になると 思いますが、ご勘弁願います。作品を制作する上で、まず取りかかることは作品の題名選びです。習いがけは、師からの参考資料中から、作品題名を検討して選び、ただ形のみを追求し、がむしゃらに書いた。展覧会を見てまわると、作品の題名と表現が一致しない作品に出合うことがよくある。題名で

## 漢字(一)

齊藤理舟

### 「書の基本は臨書である」と

書に係わる人であれば、誰でも是定する理論です。私も初学の頃は、カリキュラムに従いいろいろな古典を勉強してきました。しかし年数も経ち、作品作りの方に時間を取られるようになります。臨書に当てる時間が少くなってしまいます。締切までに何とか仕上げたいと思えば思う程、甘い線が出たり、落ちつきの無

い字形になつたりして、結局時間と道具の浪費、気分の衰弱を招くだけに終ってしまいます。この様に焦りが出てきた時は、ほんの少しの時間でも、臨書の時間に当てるといつも思います。作品の基としたい古典を臨書するのが一般的でしょうが、全く違うものを書いてみるのもよいと思っています。特長を擱もうとする思考回路、筆を持つ指の力の入れ方等、違えば違う程、本来求めていた方向が新鮮になり、心機一転で、本来の作品作りに臨むことが出来ると思います。

写真は、昨年の白扇書道会展に出品した「揚州出土簡牘」の一部の臨書です。木簡を大きく書いてみるのも気分がよいものです。



第61回書道芸術院展出品

第51回白扇書道会展

齊藤理舟臨

## 「何かひとつ」

菊 池 昌 春

(漢字部・審査会員)



第60回毎日書道展 秀作賞受賞作

菊池昌春書

何かひとつ、一生続けられる事を始めよう。社会人になって漠然と考えていた私は、「これから女性は手に職を。」という母の助言もあって、お習字の教室に行こうと思いました。小学生の時、硬筆作品で「日本書写教育研究会推薦賞」という長い名前の賞を頂いて大阪市立美術館に見に行つたこと。高校の書道の授業で、蘭亭叙の臨書を褒めてもらったこと。この二回の思い出だけで、お習字の先生になろうと思ったのです。

図らずも、私が門を叩いたのは恩地春洋先生の教室でした。机の前に座つ

て半紙に書くと思っていた私の目に飛び込んできたのは、驚きの光景!一人がかりで持つ大きな紙に、滲んで全く読めない文字らしき物体…。今のよう

にテレビで大字書など見たことも無く、何枚も、何種類もの作品を見た私は、教室を間違えてしまったと思いました。

そんな中、教室の先輩が用意してくれた大きめの筆と墨で半紙に四文字

を書いて、そのまま書道芸術の競書に出品したのが私の第一歩となりました。

わからぬまま、初めて書く条幅も面

白く、お手本を頂いて書道芸術院展に出品する時に、一生懸命真似をしたつもりの私の作品をご覧になり「落ちてくれるなよ。」とおっしゃった恩地先生の言葉が今も忘れられません。結婚・出産・何度も引越しと、師範取得後も何とか院展への出品だけは続けて来たマイペースな私の転機となつたのは、「いったい、いつになつたら書くんや。」と、笑いながら言われた恩地先生の一言でした。大阪に戻り再び教室に通っていた私は、先生のお許しが出たんだ。毎日書道展・安芸全国書展に出品する大字書が書けるんだ。

習字の先生になるという当初の夢は叶いましたが、院の審査会員になり改めて自分の書と向き合った時、造形にばかり気を取られ、線の鍛錬が全く出来ていなかった事に、「いったいになつたら書くんや。」の本当の意味を考えるようになりました。



書壇受賞に輝く作家展出品

菊池昌春書

起筆や終筆に気を配り、一生懸命に仕上げた競書の清書。大きな筆に振り回され、手足が汚れるのもかまわず、一心不乱に書き上げた大字書等、美しい字形で無くても、心に響く作品に出会った事があります。子ども達の成長する姿を見ると、自分も頑張ろうと励みになり、感動したり反省したり毎日に、やらなければならぬ事も見えて来たように思います。

今、自分に出来るのは、書に携われることに感謝し、がむしゃらに書くこと。心身共に鍛え、経験を積むことだと思っています。いつか、人生の節目に、それにふさわしい作品を書きたい。そして、師、恩地春洋先生に、「好きのように書け。」と言われるようにと願っています。

「書は人なり。」自らを振り返り、初心を忘れずに歩んで行こうと思います。一生続けられる何かを見つけたのですから。

その後、地元で書道教室を開き、お習字の先生になるという当初の夢は叶いませんでしたが、院の審査会員になり改めて自分の書と向き合った時、造形にばかり気を取られ、線の鍛錬が全く出来ていなかった事に、「いったいになつたら書くんや。」の本当の意味を考えるようになりました。

# 第65回記念書道芸術院展

## 峰雲賞



漢字部  
飯田春香



飯田春香

今年は「一生懸命」会長、恩地春洋先生の口から飛び出した新年互礼会での年頭の言葉です。果たして今回の受賞作品は一生懸命だったろうか？と。

先生は作品を見ていただいている時も多々は語らず、ここぞと思うポイントを端的に言ってくださいますが、その時は理解出来なかつたことも後になり“あアこういうことだったか”と納得することが多々あります。すべてを語らず自分で気付くまで気長に待っているのです。それから「臨書しいや」と。

良き師、良き仲間、そして家族に支えられ今まで書を続けることが出来、今回の受賞に繋がりました。まさに、「書は継続なり」です。

これからも「一生懸命」を胸に精進を重ねて参ります。今後ともご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。有難うございました。

## 書道芸術院大賞



前衛書部  
後藤歩



後藤歩

この度、歴史ある書道芸術院展において榮誉ある大賞をいただき、ただ驚くと同時に身の引き締まる思いでおります。この受賞の喜びを味わうことが出来たのも一重に千葉蒼玄先生、紅雪先生ご夫妻、玄宮社の書友の皆様、書道芸術院関係者の皆様、そして共に書を志す家族の支えによる賜物と感謝しております。

さて、私の故郷は昨年の東日本大震災による震度七の激震、度重なる余震により自宅にも液墨が飛び、筆や紙が散乱するなど甚大な被害を受けました。それを乗り越えた今、生きる力を結ぶ源に書があること、生きる喜びの源に書があること、人と人を結ぶ源に書があることを改めて実感する毎日です。書が人と人を結び、力になることを確信した今、書の持つ力を発信できるよう精進して参りたいと思います。

— 審査会員 —

第65回記念展記念賞

「刻」



小浜 大明



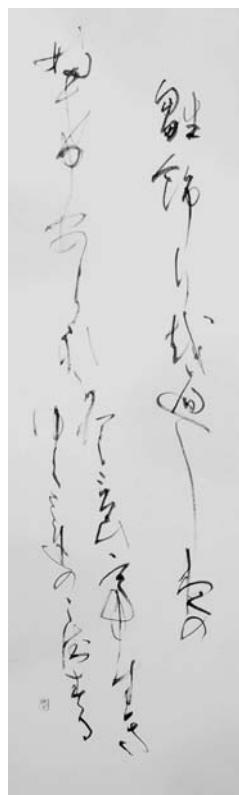
大平 邑峰

「福島」



加藤  
如石

「鐵牛無骨」



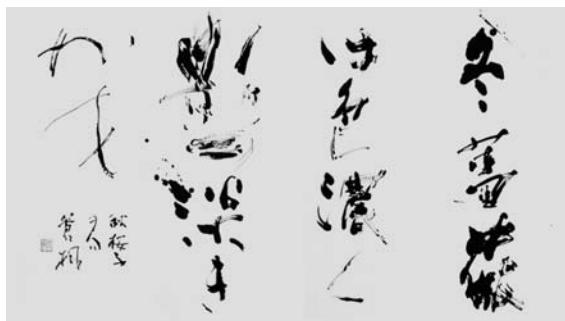
奥田 瑞舟

「零」



大町 青蓮

準 大 賞



「冬薔薇は色濃く」

佐々木蒼楓



「天の原と渡る月」

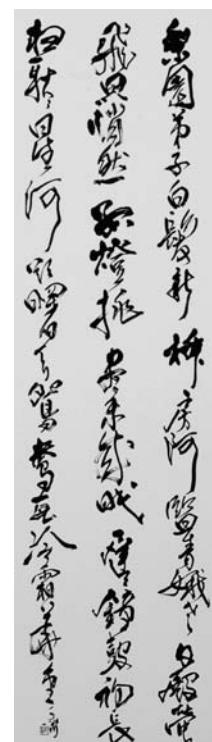
羽田 招佳

「長恨歌一節」



尾崎  
仁水

「感」



高山  
千彩



「与謝野晶子歌」

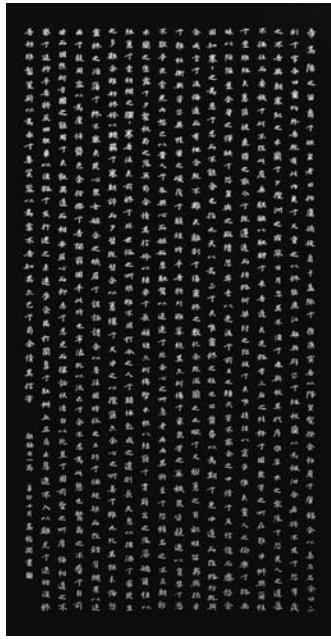
小原 華杏



「鳥啼山更幽」

大沼  
樵峰

第65回記念展記念賞  
— 審査会員候補 —



高橋潤

「鑑賞」



「梅村紅月の詩」

池田翠月

「青草湖邊日色低」



「仁」

塚本真由美

土井琴翠





△原寸大△

## 〈解説〉

高貞碑は、南北朝時代、北魏の五二三年に建てられた墓碑。北朝で発展した六朝楷書を代表する書蹟として知られる。

被葬者・高貞の墓の荒廃とともに土中に埋も

れ、長期間存在を知られずにいたが、清代末期（一七九〇年代末）に德州で出土した。戦後、文化大革命の被害により破壊されたが、補修後、山東省の孔子廟に保存されている。（編集部）

黄中通理之名。  
卓爾不群之目。  
固已殊異公族。

※落款を必ず入れる  
署名、もしくは  
○○臨  
(押印のみも可)

## 特別研究部臨書課題

II (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可

用紙 半紙普通判  
左の法帖の中から  
何文字臨書してもよい。  
(掲載部分以外は不可)

## かな研究部

升色紙（伝藤原行成筆）①

## 特別研究部臨書課題

（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）左記の掲載以外も可

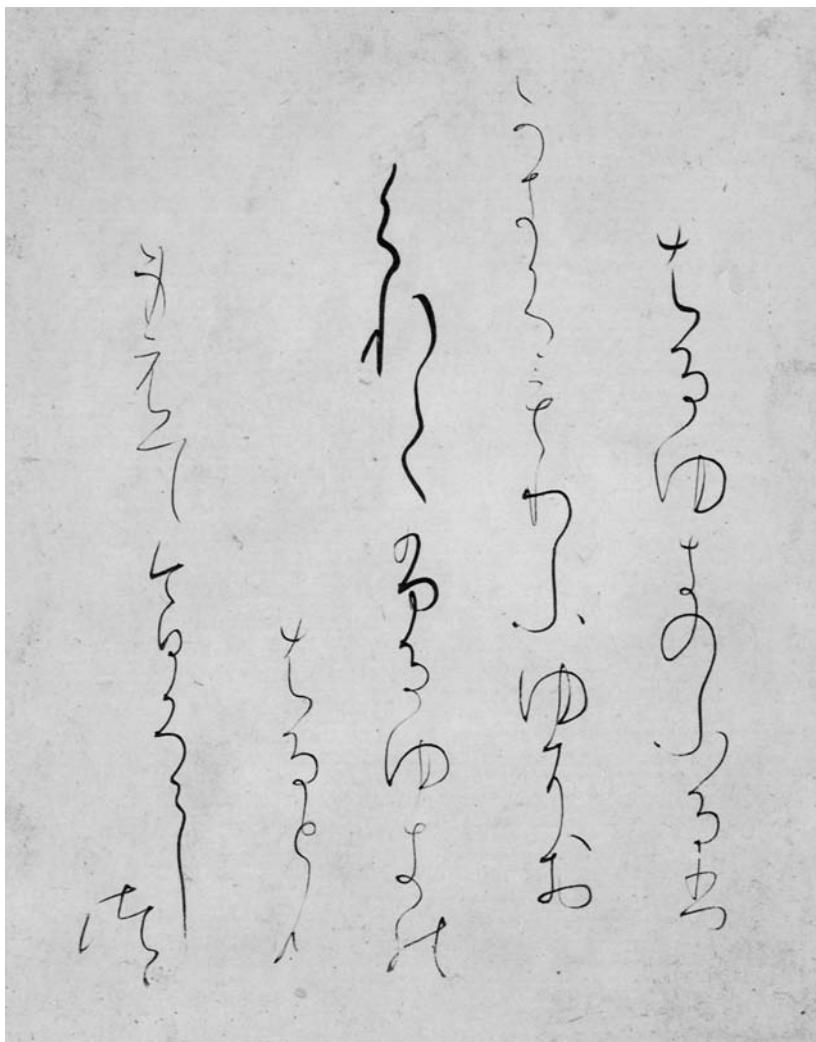
＝注＝

- ・升色紙は、左記の掲載写真を全臨する。（拡大臨書も可）
- ・左記の原寸大で書く場合は、半紙もしくは半紙の大きさの  
料紙に枠をとり、その中に書く。
- ・落款を必ず入れる。署名もしくは○○臨、押印のみ可。  
(落款の位置は、枠内でも枠外でもよい)

用紙

・半紙普通判（料紙可）

〈たて長に使用〉

・別紙を裁断して貼付も可。  
半纏紙は、半紙サイズに切つて使用のこと。

(原寸大)

〈解説〉

はるゆきのふるひ

かぎくもりふゆにお

くれてふるゆきの

はるとも

みえで今日くらし

つ

升色紙、寸松庵色紙、繼色紙  
は合わせて三色紙とよばれてい  
る。升色紙は、料紙の形が升の  
ような方形をしていくことから  
この名がついた。

料紙は、白を中心とした鳥の  
子紙で、紙面全体に雲母砂子が  
撒かれている。初めは糸綴りの  
冊子本だったが、後に分割され  
断簡となり、二九葉三〇首分が  
確認されている。

内容は「清原深養父集」を書  
写し、一葉に一首のみならず、  
二首並べて書いたものもある。  
深養父は、生没年は未詳だが、  
清少納言の祖父にあたる。

湯木美術館蔵

習い方解説 (一)

半田藤扇

春風駘蕩(自句)  
(春風駘蕩)

春風が吹きのどかな形容

今月から六回担当いたします。

四字句二回、五字句を四回です。

あたりは春の香気に満ちてきました。春の爽やかさが手つだつて心なごむ書風で表現してみました。

筆は宿純羊毫の短峰を使用。

柔らかい筆を使用の時は、筆端まで神経を使って、ゆったりと運筆してみましょう。

渴筆については、紙面を穂先が走るように……。といつても、リズムが大切です。かすれ線は、技量から生まれます。うわすべりしないように丁寧な運筆に心がけてみてください。



習い方解説 (-)

小林琴水

鳥歌花舞  
(春の山野の光景)

楷書は、筆順が大事です。筆順を  
違えると字形がくずれます。  
一点一画、線の太い、細いをつけ  
ながらバランス良く書いていきま  
しょう。

「鳥」  
「歌」  
「花」  
「舞」

宀

乚

四字ともに終画に注意しましょ  
う。



書体=楷書

鳥歌花舞

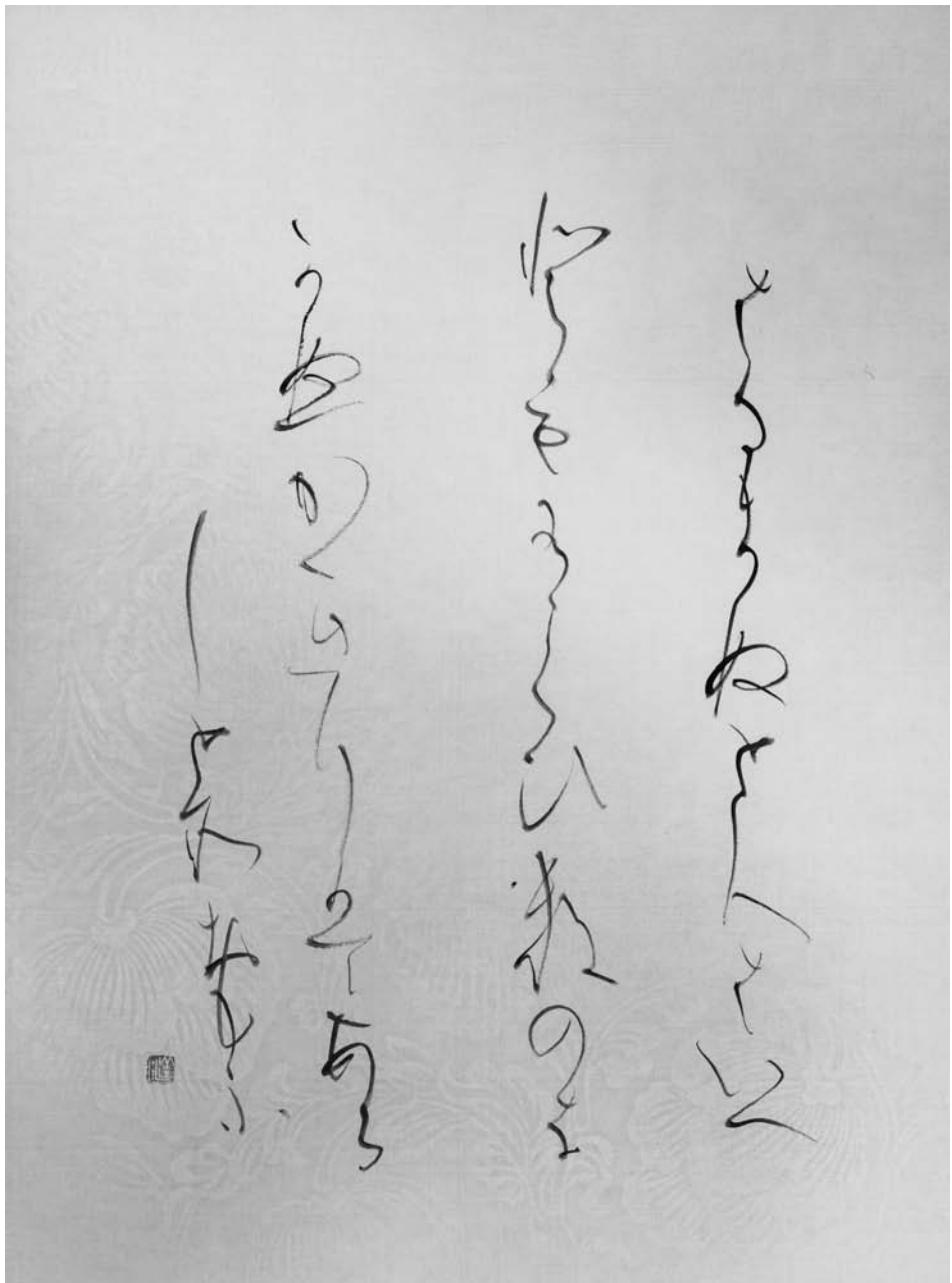
よみ (鳥歌い花舞う)

習い方解説 (-)

下谷洋子

春きぬと人はいへどもぐひすの  
鳴かぬかぎりはあひじいを思ふ

(古今和歌集)



創作



△参考△

現代アート作家内藤礼さんは、「この世で一番美しいものは、人の心の中にある」と言い、それを受けて脳科学者の茂木健一郎さんは、心の美しさは、『動的バランス』の中にあると言っています。心はいろんな感情のバランスを崩せば生きることを苦しします。作品も同様ではないでしょうか。一枚の紙に和歌をしたためるには、文字の大小、線の太細、各行の動き、余白の度合いなど、全てバランスよく収めることが、かなでは先ず必要とされます。文字が小さく細すぎて周りの間が空きすぎればそれはやはりバランスが悪いことになります。ではどうしたら良いか。確かな眼を養い、そこからつり合いというバランスを掬い取るしか方法はないようです。今回も行書きから始めますが、行書きはその第一歩です。

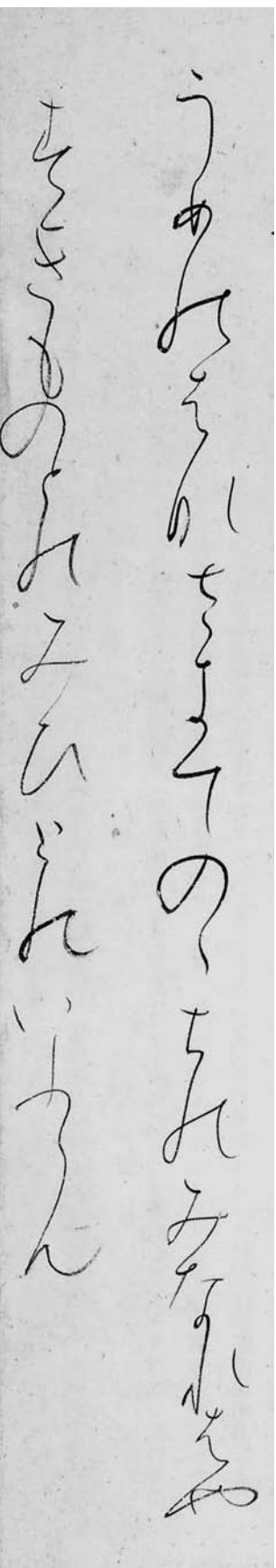
よみ方 は(者)るき(支)ぬと人は(者)いへど(登)も(毛)う(有)く(久)ひす(数)の  
な(奈)か(可)ぬ(怒)かきりは(盤)あらじとぞ(所)おもふ

かな規定 秀級以下 【五月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

高野切 第三種

(掲載写真縮小93%)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。



よみ方 うめの(能)は(者)な(那)さき(支)ての(ゝ)ちの(能)みなれば(者)や  
す(春)きものとの(能)みひとの(能)いふらん

### 習い方解説 (一)

和氣しげ代選書

心あてにそれかとぞ見る白露のひ  
かりそへたる夕顔の花 (源氏物語)

心あてにそれかとぞ見る白露のひ  
かりそへたる夕顔の花 (源氏物語)

心あてにそれかとぞ見る白露のひ  
かりそへたる夕顔の花 (源氏物語)

一行目は右側に寄った流れです  
ので、字形、文字の大小で動きを  
つけます。二行目は一行目との間  
の余白があるので、一行目より自  
由に動けます。渴筆になりますか  
ら大きく運筆、ゆっくり呼吸して  
渴筆のおもしろさを出して下さい。  
「夕」で墨つぎ、「花」を中心右  
に寄せます。線の流れでいろいろ  
趣のある作品が生まれます。

創作

よみ方 心あてに(一)そ(所)れ(連)か(可)とぞ(處)見る白露の(能)  
ひ(悲)か(可)りそ(曾)へた(多)る(類)夕が(可)ほ(本)の花

\*たて形式に限る

西林乘宣



漢皇重色思傾國 御宇多年求不得  
(漢皇色を重んじて傾国を思う、宇を御すこと多年、求むれども得ず)

(長恨歌・白居易)

書体=自由

また6ヶ月間、担当させて頂くことになりました。いつものように篆・隸・楷・行・草そして今回は帛書と参ります。題材は全部白居易の「長恨歌」。先ずは古典(例・泰山刻石)で篆書の基本を勉強し、それから課題に取り組むようにしてください。(大意—漢の皇帝は女色を重んじ、絶世の美女を得たいと長い治世の間思っていたが叶わなかった。)

漢字条幅規定 秀級以下 【五月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

大野祥雲選書

習い方解説 (一)

大野祥雲



妙言無古今  
(妙言古今無し)

(張元彪)

書体=自由

名言には、古今の区別はない。筆の開閉を利かし、伸びやかに書きましたが、所詮、雁塔の残像になりました。原帖であらゆる用筆を習得しましょ。横画一つを見ても、始筆(順筆、逆筆)、送筆(筆庄の変化の妙)、終筆(右下におとすか、右上に押し出すか)などをくり返し力をつけてください。

習い方解説 (-)

稻垣 小 燕

一番よいのは 文章もうまく  
誠心のある手紙 次は文章除は

下手でも誠心の十分にあるもの

次が文章除はうまいが誠心の疑われ

る義理だけの手紙 小燕書

メール全盛の今日、手紙を書く機会  
が極端に少なくなっていますが、直筆  
の手紙からは文面以外の様々なことが  
伝わってくるのです。

『手紙を書こう』との思いで、菊池寛  
の『手紙の心得』より課題を選びまし  
た。  
・楷書で一字一字を一寧に書きましょ  
う。  
・気持ちを込めて書きましょう。

※落款を必ず入れる。

(自分の名前を入れること)

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

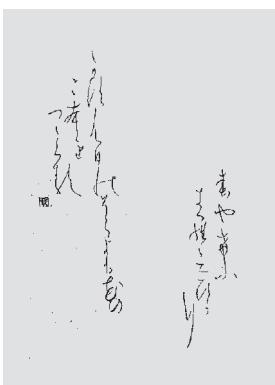
書体=自由

今月の

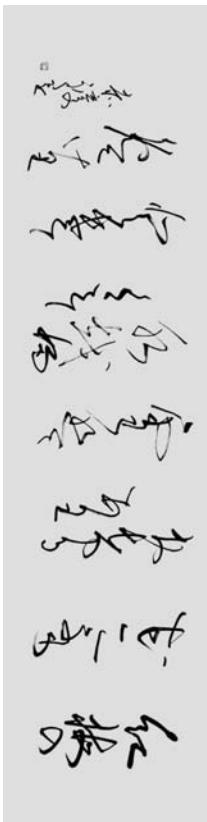
# ホープ作品 各部総評

No. 610

かな部 師範 森田 龍博  
伝統に則ったバランスのよい散らしが美しい。線が細いので筆毛の弾力を生かす工夫でより精進を。  
◎かな部総評 良い作が多かったが、やはり小さい。細いでは生彩感がなく息遣いが聞こえない。練習の上自在さ出した。(洋子評)



漢字条幅部 師範 松田 藍華  
鶏毛筆による篆書表現は独特の渴筆がリズムを生み、安定した構成に味わいを醸し出して妙。  
◎漢字条幅部総評 上下級共安定作多し。書体も篆隸から行草まで色々あって楽しいが線質の浅い作が多く筆力を鍛えた。(大雪評)



かな条幅部 師範 増田 佳子  
押さえめの字粒、緊張感のある線で一貫し、美しい余白美を生む。落款が優しさを加味し至上の作。



◎かな条幅部総評 立派な手本も未消化は誤字の原因です。一字ずつの確認を習慣化すること。誤認が特に多く残念! (明子評)



現代詩文書部 特選 島中 成山  
中央に配された文字は筆の開閉が見事、細字の部分も字形が正確で、よく工夫され調和している。  
◎現代詩文書部総評 細字の作品が多いが、線質や構成に考慮して、正確な文字を書きたい。(鄭雲評)



前衛書部 特選 坂本 覚山  
半紙の枠内で考えながら着想は横溢。宇宙による感慨を与え、包容力も多大で秀逸。  
◎前衛書部総評 今回はスケールの追求が不足気味。力が抜けた異色作品を期待します。(慧香評)

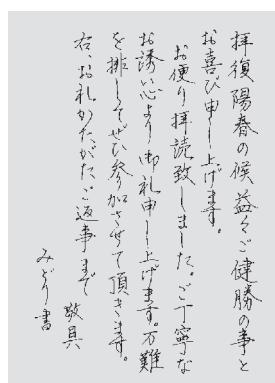
落款まで統一感があり、明るく、温雅な作。今後字間にゆとりを、  
かさを最近古筆手鑑を拝見して実感。増々のご精進を。(和楓評)

ペン字部 師範 都丸みどり  
繊細な線質に流動美が加わり、  
ば同数、連綿の大切さ、字形の確  
かさを最近古筆手鑑を拝見して実  
感。増々のご精進を。(和楓評)

◎ペン字部総評 漢字、かながほ  
ぼ同数、連綿の大切さ、字形の確  
かさを最近古筆手鑑を拝見して実  
感。増々のご精進を。(和楓評)



漢字部 師範 高木 蒼信  
漢簡の書風に現代的な味付けをしている。温かさと艶を感じる線質は紙・墨量等の工夫による。  
◎漢字部総評 今日の師範作品は各自の創意が感じられた。秀得以下作品も、古典を学んでいるらしい作品には品格がある。(翠風評)



今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)

漢字 (恵雅) 板橋雅邦

「花宮仙」



板橋雅邦書

180×62cm

◆速度ある運筆。細い線の切れ味見事にマッチ。少々流れの速い所が目立つので一寸ひと息つく所が:

(倫子評)

◆自由自在な動きが奔放ではなく知的な作品です。堅い筆が細やかに動きながら、煩しさがなく美しい。

(明子評)

臨書

(千葉)

大内熒軒

「十七帖」

◆上野本の特長をよくとらえ、着実な中に柔らかな雰囲気を表現している。やや動きが小さいか。

(大雲評)

◆平素、真正面から表現される方とお見受けする。一字ずつが丁寧で拓本とは異なる線質が絶妙です。

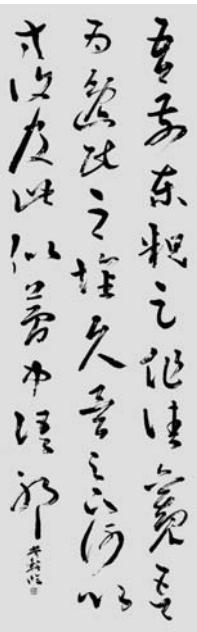
(明子評)

◆坦々と書き綴られ落ち着いたリズムを感じる。温雅でゆとりがあり筆力が非常に安定している臨書。

(龍雲評)

◆ゆったりとした構え、のびやかな雰囲気を感じさせてくれる。筆を入れた時一呼吸入れた感じ目につく。

(倫子評)



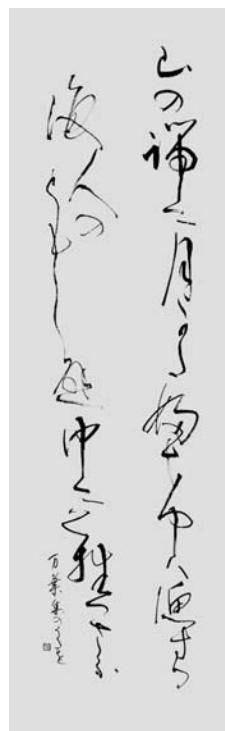
173×53cm

かな

(卯月)

栗原信子

「山の端に…」



栗原信子書

173×53cm

臨書

(千葉)

大内熒軒

「十七帖」

◆上野本の特長をよくとらえ、着実な中に柔らかな雰囲気を表現している。やや動きが小さいか。

(大雲評)

◆平素、真正面から表現される方とお見受けする。一字ずつが丁寧で拓本とは異なる線質が絶妙です。

(明子評)

◆坦々と書き綴られ落ち着いたリズムを感じる。温雅でゆとりがあり筆力が非常に安定している臨書。

(龍雲評)

◆ゆったりとした構え、のびやかな雰囲気を感じさせてくれる。筆を入れた時一呼吸入れた感じ目につく。

(倫子評)

◆細線の軽妙なりズムが美しい三行書。潤渴の変化が紙面に微妙な動きを与える美しい作。やや走りすぎか。

(大雲評)

(龍雲評)

(倫子評)

◆緩急自在で軽快なりズム感がありスケールが大きい。鋭敏な線質で行間に余白に響く魅力的な作品。

(龍雲評)

大内熒軒臨

(龍雲評)

◆表現力豊かでモダンな万葉の歌は心に響きます。中央の余白の置き方は、見事という外ありません。

(明子評)

◆緻密な構成力で配字よく余白美のある作。練度高く俊抜な線質で濃淡潤渴が美しく経験値を感じる。

◆思い切りの良い運筆のリズムが、大胆な中に広がりある世界を表現している。懷抱の大きさを買う。

(大雲評)

# 「春の声」 野口加奈

前衛書 (四谷)



180×62cm

◆墨色の変化から表現された面白さ。流れによって濃い墨の変化が上手に表われている。最後が重い感。  
（倫子評）

◆難解に思える淡墨の大作に思考を促される。用具は何？ 描く、書く、その他？ 何だかすごいい作。  
（明子評）

野口加奈書

現代詩文書  
(翠柳)

加藤紫翠

62×180cm

## 「凍てついた景」

◆軽やかなリズムが明るく大きく広がりある表情を現して妙。柔らかな渴筆が魅力だが深味がほしい。  
（大雲評）

津一  
ひや風

明子評

◆朴訥とした雰囲気の中にスピード感が注入され、紙面の外に響く動きが所々に見受けられる明るい作。  
（龍雲評）

◆濃墨による墨だまりとかそれが紙面の動きを引き立てている。後半の一行少々弱い感じがする。

（倫子評）



173×45cm

現代詩文書 (大雲) 阿部恵泉

阿部恵泉書

◆濃墨によるしなやかな運筆が美しい。桜色の中に漂う作者の身も心も想像でき詩文書の伝達力に感服！  
（明子評）

◆濃墨による墨だまりとかそれが紙面の動きを引き立てている。後半の一行少々弱い感じがする。

（龍雲評）

◆濃墨を巧みに使いこなし動きを美しく表現している。線に表れる速度の変化、全体を引き締めている。  
（倫子評）

◆桜花を散り敷した湖面の美しさが魅力的。水面にゆれる花びらを連想させ、情感溢れる作品。

（大雲評）

総出品点数  
78点

〈特選候補者〉  
〔創作の部〕

〔漢字〕

〔現代〕

〔前衛〕

〔漢字〕

創作の部 (51点)  
漢字 - 14点  
かな - 5点  
現代 - 17点  
篆刻 - 0点  
前衛 - 15点  
臨書の部 (27点)  
漢字 - 27点  
かな - 10点

漢字研究部  
(十七帖)

選評 竹田尚堂

今月のホープ作品



碓井 弘

課題の「上野本」の流れが自然で柔らかな風韻が適確に表現されていて、「十七帖」の一面貌と納得させられます。起收筆、転折に少し鋭さが加われば、更に羲之書の格調の高さに一步近付き得ると予感させる佳臨です。

◎漢字研究部総評

最上位の作はそれぞれの捉え方で、「十七



香春 恵光 喜絹  
美久  
月台子 彩子 子

翠蕙 遊恵 君江  
紫  
園睦 春舟 江彩

邦悦 美佳 笙  
紫  
泰子 和奈 洋

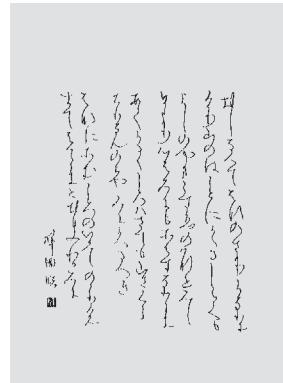
幸美 烏煌 依麗  
美喜子  
春梢 泉未 流

帖」の多面性を再認識させられるものでした。一方、法帖の觀方の甘さを感じる作、字形は追っていても筆力の乏しいもの、用筆に荒さが目立つものも多数でした。起收筆、転折がより鋭い刻本「三井本」を合わせ習うと、筆力を高めるヒントが得られ、逆に「上野本」の柔か味を感じでき、更に觀察眼を養うことにも繋がります。「兒・以・尚・外」に誤字多數。画と帖の傷みの判別など字書の活用を。

か な 研 究 部  
(山家心中集)

選評 善養寺 紅 風

今月のホープ作品



## 岩瀬祥園

## ◎かな研究部総評

全体的によく書かれていましたが、誤字が少々見られました。臨書作品を書く時は、歌を読みながら文字を確認し正確に書く習慣をつけると良いでしょう。

繊細でモダンな造形を、スピードにのって見事に書かれています。墨色、墨量ともに均齊のとれた格調たかい作品となりました。

江光喜  
理子子萩

嘉彩溫  
江香子

草純愛  
秋風石

良紅麻  
泉霞美

大雲千葉高生上泉  
磯貝高田飯新新荒井  
清耀生幹光彩枝翠實玲子

A 岷春椿玉紅竜高大前安千高春大清玉N 砥奥石竜玉正  
I 玄汀翠川瑤泉陵雲橋波葉崎町阪月松H 水田習泉松華  
伊中渡岡谷須高會堀春小神青辰後小小川宮小松後櫛佐  
藤澤子田知田橋木切山野谷木本藤林川田澤林丸藤本藤  
裕寺江  
寿雅紀十美香雅勇幸勝久理光喜嘉彩溫草純愛良紅麻  
子子夜子舟泉介雲美美卿子子萩江香子秋風石泉霞美

特選  
かな研究部成績表  
正平華  
伊藤上  
著

八街足助 実

竹五松梵大泉澄幕秀正一麗秀五森大春竹香う弘松硯童樹蒼翠幕生鬼大艸如N大こ檐高清た石澄た誠竜千彩正京松  
扇葉村阪会春張敵華葦澤水葉地雲光扇月る舟村水泉原陽翠張大高雲玄月H阪だ翠井月か習春が和泉葉華橋村

足助

寒枝

炎陸翠白白靖清玉一宏一瑠惠ど絹雅久小香寿美志雅龍淑憲惠春典和紫蘆真萩星珠和茂代皓春春悠責理敏知花隆秀子芳鶯子洗華水枝翠琴子り子雲子秋生子子江芳貞子子代舟峽子敬風城澄光祥菜子夫子泉華燈花泉扇子子華

明漢

千八八石苑英八N澄英竜翠館艸大東筑千蘭N大若詢生正玄蓮古蘭竹大広泉春筑こ千前高千澄N誠八華八生岩誠遊大こ  
蓬生雲習書峰街日春峰泉吟山玄阪光桜葉鼎H雲葉扇大華象紅島鼎扇阪島会汀桜だ葉橋真葉春H和戸祥街大沼和雲阪だ

嶋  
与

林子

選外  
220

五皓止道澄長日山蓮澄大士椿千有洞秀東麗詞泉石大秀翠上生大玉大英渡た澄竜土止生澄葉映華春月子王紅春阪氣翠葉秋書水向澤扇会舟阪歐柳泉大阪松阪峰辺か春泉氣華大春

名氏名